

第1章 目指す子どもの姿

- 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方
- 2 基本目標の達成状況
- 3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

「輝く よっかいちの子ども」実現に向けて

子どもたちが将来生きていく社会は、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在すると予想されます。そのため、子ども自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力としての「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成が必要です。

また、教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することが大切です。

本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、「社会人になっても通用する問題解決能力」を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指しています。

○四日市市教育大綱 ～5つの理念～

- 1 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 3 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- 4 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- 5 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



○第3次四日市市学校教育ビジョン ～6つの基本目標～

- 「子どもにつけたい力」
- 基本目標 1. 確かな学力の定着
 - 基本目標 2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成
 - 基本目標 3. 健康・体力の向上
- 「子どもを支える学校づくり」
- 基本目標 4. 学校教育力の向上
 - 基本目標 5. 地域とともにある学校づくり
 - 基本目標 6. 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進



四日市市の教育理念を実現するための基本的

目指す子どもの姿

輝く よっかいちの子ども

生きる力

子どもたちが、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間としてたくましく生き抜くための力

共に生きる力

多様性を尊重する心や豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身に付け、他者と協働し、共に未来を切り開いていく力

社会人になっても通用する問題解決能力

自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力

確かな学力

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能
- ▶ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ▶ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

豊かな人間性とコミュニケーション能力

- ▶ 自律的に活動する力、規範意識
- ▶ 豊かな感性、優しさ、思いやり
- ▶ 多様性を尊重し、他者と協働しながら創造的に生きる態度
- ▶ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ
- ▶ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

健康・体力

- ▶ 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力
- ▶ 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣
- ▶ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

学校教育力の向上

地域とともにある学校づくり

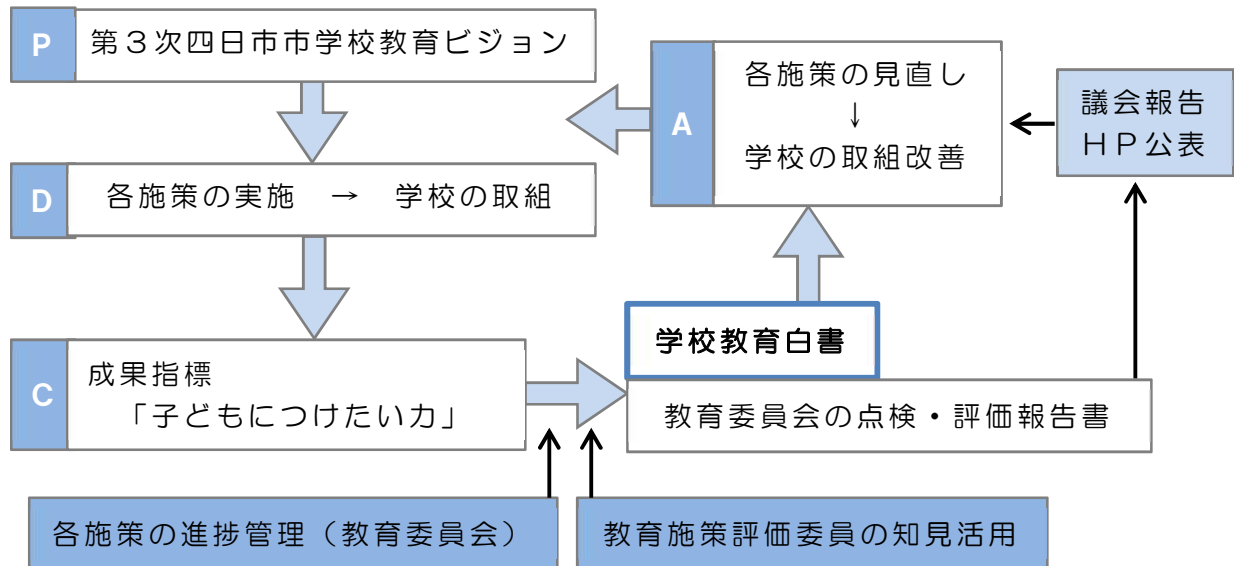
四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

第1章 目指す子どもの姿

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

本市では、目指す子どもの姿の実現のため、特に「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づく評価を実施しています。

また、基本目標の各教育施策については、具体的な取組指標に基づき、取組の進捗管理及び評価をしています。



本白書は、子どもたちの今の姿や学校の取組の現状、今後のあるべき姿を表すとともに、教育委員会の点検・評価報告書の役割も担っています。

2 基本目標の達成状況

第3次学校教育ビジョンの「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づいた評価を実施します。

(1)「基本目標1 確かな学力の定着」の達成状況

①基礎的・基本的な知識及び技能の定着

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2※	目標
①	全国学力・学習状況調査結果 (小6…国A、国B、算A、算B、理) (中3…国A、国B、数A、数B、理) 全国平均値を100としたときの全科目の市平均値	小	97.4	100.5	100.0	100.4	98.9	-	102
		中	101.3	102.0	102.1	100.8	102.5	-	105

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均値を100としたときの全科目の市平均値を成果指標とし、小学校102、中学校105を目標値としています。

※令和2年度は、調査実施時期(4月)において、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、全国学力・学習状況調査が実施されませんでした。このことから、みえスタディ・チェック及び学習と生活のアンケート※¹により、本市の子どもの状況を分析しました。

※1学習と生活のアンケートについては、三重県教育委員会の調査項目に加え、四日市市教育委員会独自の項目を設定し、調査を行いました。

②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

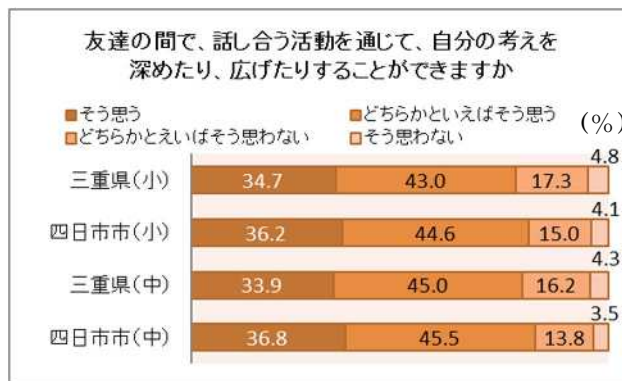
成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	63.2 (全国66.9)	67.9 (68.3)	67.3 (68.2)	77.6 (77.7)	73.1 (74.1)	80.8 (県78.5)	80
		中	65.6 (全国62.9)	67.0 (64.8)	66.3 (64.8)	79.3 (76.3)	78.2 (72.8)	82.3 (県78.9)	80

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

※ 令和2年度()内数値…三重県の割合

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成では、全国学力・学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも80%を目標値に設定しています。

令和2年度は、小学校、中学校ともに全国平均値を上回り、過去5年間に於いて最も高い値となりました。加えて、目標値の80%を上回る結果となりました。読解力向上につ



第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況

いて重点的に指導するとともに、学校教育活動全体で言語活動の充実を図ることで、思考力・判断力・表現力を高めていきます。

③学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	89.5 (全国 89.5)	91.4 (89.6)	90.0 (88.5)	92.0 (90.3)	92.9 (91.9)	-	95
		中	79.3 (全国 78.4)	81.3 (78.1)	83.0 (77.9)	78.8 (72.9)	86.3 (82.1)	88.8 英語のみ	85

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校85%を目標値に設定しています。令和2年度は、中学校英語科における数値が目標値を上回りました。中学校英語科における4技能(話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと)の向上が、これからのグローバルな社会を生き抜く力につながることを意識することにつながったと捉えることができます。引き続き、「なぜ学ぶのか」といった学ぶことの目的意識や「学んだことが将来へどのようにつながるのか」といった将来への展望を持たせるとともに、夢や志の実現のために「学び続ける態度」の育成を図ります。



(2)「基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」の達成状況

①自律的に活動する力、規範意識

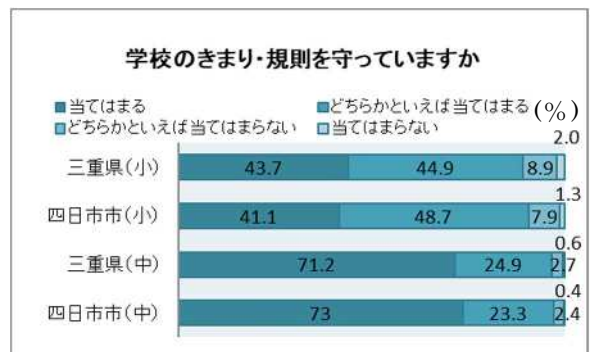
成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
①	「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	91.1 (全国 91.1)	91.1 (91.5)	92.9 (92.6)	89.0 (89.5)	92.1 (92.3)	89.8 (県 88.6)	95
		中	95.3 (全国 94.4)	96.5 (94.7)	97.1 (95.2)	96.9 (95.1)	97.8 (96.2)	96.3 (県 96.1)	97

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校97%を目標値に設定しています。

令和2年度は、小学校、中学校ともに前年度よりも数値は若干の減少となりましたが、5年間で小学校では約90%、中学校では約95%を推移していることから、本市の強みとして捉えることができます。

引き続き、道徳科をはじめ、日々の学校生活においてルールを守ることの大切さを伝えていく指導を行い、規範意識を育みます。



第1章 目指す子どもの姿
2 基本目標の達成状況

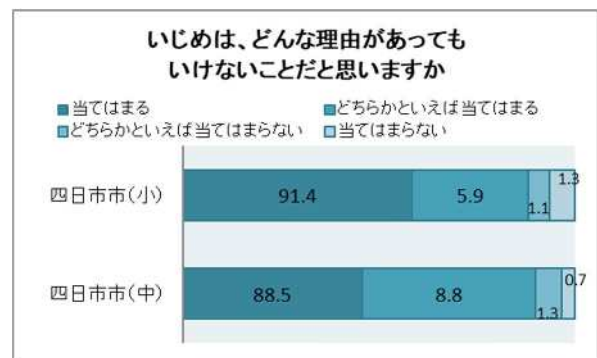
②豊かな感性、優しさ、思いやり、多様性を尊重し他者と協働しながら創造的に生きる態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	96.5 (全国 96.2)	97.9 (96.6)	96.6 (96.1)	97.9 (96.8)	97.4 (97.1)	97.3	100
		中	93.3 (全国 93.7)	93.0 (93.6)	92.5 (92.8)	96.3 (95.5)	95.7 (95.1)	97.3	100

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも100%を目標値に設定しています。

令和2年度は、小学校は前年とほぼ同じ、中学校は最高値となりました。いじめについては、絶対に許されないということを理解し、全教育活動を通じて、学校生活の中で実践できるよう、粘り強く指導していきます。



③ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	79.5 (全国 77.8)	78.7 (77.9)	77.8 (76.7)	77.9 (77.7)	77.5 (県 74.4)	80
		中	77.2 (全国 73.8)	79.0 (74.9)	76.3 (73.8)	80.5 (74.8)	74.2 (県 73.0)	85

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校80%、中学校85%を目標値に設定しました。

令和2年度は、小学校は前年とほぼ同じ、中学校は約5ポイント減少しました。今後も、児童生徒が主体的に考え取り組むよう、授業において問題意識を持たせる、一人では解決できないような課題を提示する、タブレット端末を活用した自主的な学習など、授業等において、問題解決能力向上のための工夫や改善を行う必要があります。



④豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
④	「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	64.4 (全国64.2)	65.8 (64.9)	60.8 (61.0)	61.1 (62.5)	71.8	70
		中	59.7 (全国57.7)	59.9 (57.9)	54.9 (53.8)	59.4 (55.8)	75.4	62

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校70%、中学校62%を目標値に設定しています。

令和2年度は、小中学校ともに過去最高値となったことに加え、目標値を上回りました。これは、授業において、児童生徒が、自分の思いや考えが相手に的確に伝わるよう表現の仕方を意識することができたことと捉えることができます。今後も児童生徒の考えや意見を発表する場を設け、適切に表現する力の育成を推進します。

(3)「基本目標3 健康・体力の向上」の達成状況

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が行われなかったため、令和元年度までの数値を記載しています。

①生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒の総合評価(A~Eの5段階)で3段階以上(A~C)の児童生徒の割合(%)	小	男子66.9 (全国70.1)	67.4 (70.3)	71.0 (71.2)	71.1 (71.2)	69.8 (68.8)	-	75
			女子70.2 (全国75.1)	74.0 (76.3)	75.3 (77.0)	76.9 (77.5)	76.4 (76.2)	-	75
		中	男子74.2 (全国71.1)	72.7 (71.8)	73.0 (71.7)	74.4 (72.3)	67.6 (69.8)	-	75
			女子85.5 (全国86.6)	89.8 (87.5)	90.2 (88.1)	91.0 (89.2)	88.8 (88.4)	-	90

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒の総合評価(A~Eの5段階)で3段階以上(A~C)の児童生徒の割合を指標とし、小学校及び中学校男子において75%を、中学校女子において90%を目標値に設定しています。

第1章 目指す子どもの姿
2 基本目標の達成状況

②運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合（%）	小	男子 75.0 (全国 74.0)	71.3 (73.0)	74.6 (73.2)	71.5 (72.9)	71.3 (71.2)	-	80
			女子 56.3 (全国 56.4)	54.2 (56.7)	53.2 (56.4)	51.0 (55.5)	52.0 (55.5)	-	60
		中	男子 66.3 (全国 65.0)	65.3 (63.6)	63.5 (63.4)	61.0 (63.5)	63.5 (62.9)	-	70
			女子 49.3 (全国 48.0)	50.0 (46.9)	46.0 (47.1)	45.3 (47.5)	44.3 (46.9)	-	53

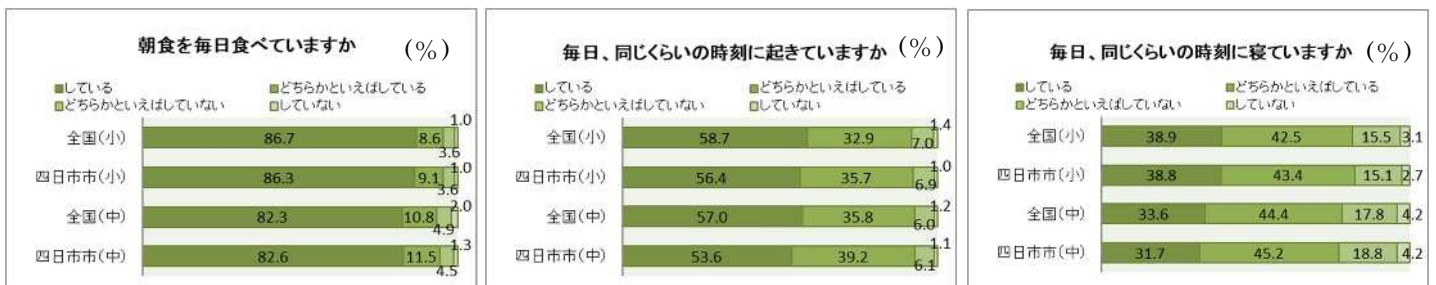
※ 現状値は、平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（小学校5年生・中学校2年生対象）

③心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値（%）	小	89.2 (全国 88.7)	89.8 (88.8)	89.6 (88.8)	86.3 (86.8)	89.9 (89.4)	-	93
		中	86.0 (全国 86.9)	86.8 (86.9)	87.8 (87.1)	85.7 (85.5)	87.9 (88.0)	-	90

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値を指標とし、小学校93%、中学校90%を目標値に設定しています。



本市では、学校、家庭、地域が連携して、子どもの生活リズムの向上を推進する取組を行っています。規則正しい生活ができている児童生徒は学力が高い傾向にあることも全国学力・学習状況調査の結果から示されています。多くの児童生徒は規則正しい生活ができていますが、今後も、家庭、地域との連携を深め、全ての子どもの生活リズム向上に向けた取組を進めていきます。



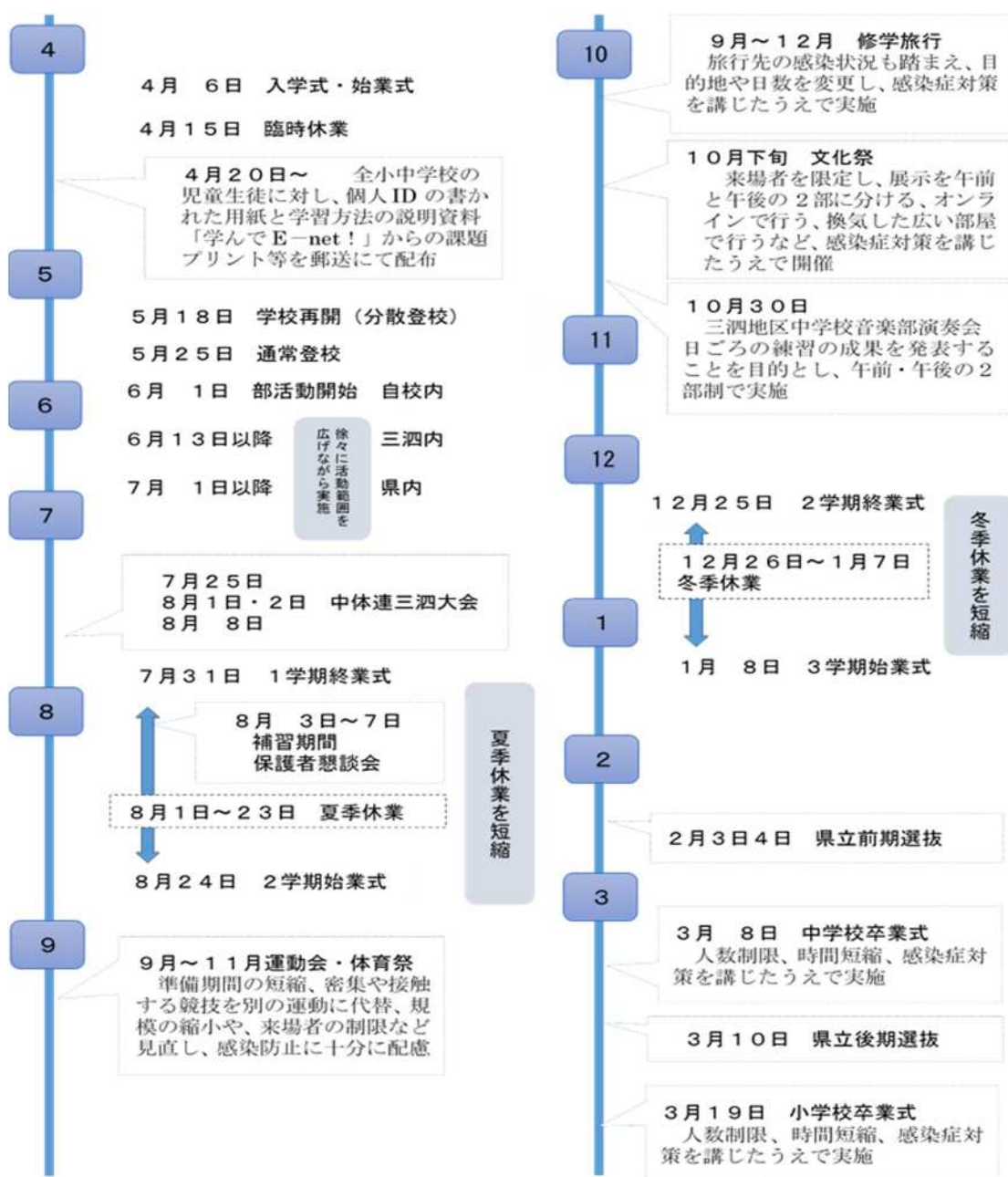
第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

令和2年度は、世界的にも新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受け、学校生活だけでなく日常の生活も大きく変わる一年となりました。本市においても、令和2年3月からの一斉臨時休業に加え、4月中旬からは2度目の臨時休業を行うなど、約2か月間、授業や部活動など、学校教育活動を行うことができない状況となりました。この間、オンラインを含めた家庭学習の充実など、臨時休業中の学びを継続する取組を行うとともに、学校再開後の「新しい生活様式」による感染症対策を講じた教育活動への対応など、児童生徒の学びを継続するために工夫して取組を進めてきました。

1 令和2年度 市立小中学校の1年間



第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

2 臨時休業中の学びの保障に係る取組

○長期休業期間の短縮

夏季休業期間及び冬季休業期間を短縮することで、2学期の授業時数を確保し、臨時休業中の学びを保障。

○夏季休業期間中の補習

1学期の学習内容をさらに定着させたい児童生徒を対象とした補習を実施。

○家庭学習課題の配付

学習プリントの配付やオンライン学習教材「学んで E-net!」等を活用しながら、家庭において自主学習ができるような指導及び支援。

3 「新しい生活様式^{※1}」に基づく学校での取組

本市では、「新しい生活様式」に基づき感染症対策を講じたうえで、学校教育活動を進めてきました。

(1) 感染症対策を講じた取組

①基本的な感染症対策

各小中学校では、以下の基本的な対策を基に、授業や学校行事等を行いました。

- ・児童生徒及び教職員の毎朝の健康状況確認の徹底
体温、健康状態の把握のため、健康観察表を提出
- ・手洗い、咳エチケットの徹底
石鹸を使用した丁寧な手洗い、マスクの着用等
- ・清潔な空間の維持管理
通常の清掃活動に加え、とくに多くの児童生徒が触れる箇所を消毒
- ・換気の徹底と3密（密閉・密集・密接）の回避
空調設備を積極的に活用するとともに、常時、換気を徹底

※1 「新しい生活様式」…文部科学省から出されている『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』のこと。学校における感染症対策や臨時休業の判断等、教育活動を継続するための具体的な対応についてまとめたマニュアルです。最新の知見に基づき作成されるため、随時更新されています。

②感染症対策を講じた学校教育活動

ア. 授業の様子



【教室環境】
パーテーションを外す、机間を離すなどの工夫



【音楽科の授業】
マイクを使い、飛沫対策を講じた指導の工夫



【体育科の授業】
個人種目を優先したカリキュラムを編制



第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況



【特別支援学級での授業】
対面指導のため、フェイスシールドを活用するなどの工夫



【学年集会】
座る間隔を広げるなどの工夫



【理科の授業】
対面にならない座席の工夫、2人一組での実験など

イ. 学校行事等の様子

○感染症対策を講じた運営方法の工夫

・運動会・体育祭

学年部別に時間帯を分ける、午前中開催、種目を精選する、児童生徒間の間隔を保つ演技や競技の工夫、声を出さない応援の工夫などを行い、全小中学校で実施

・文化祭（中）

学年別開催、オンライン会議システムを活用した合唱発表の鑑賞、パーテーションを活用した展示教室の工夫などを行い、全中学校で実施

・社会見学、校外学習

バスの増便による密集の回避、こまめな消毒などを行い、実施（ただし、県外への見学については自粛）

・自然教室（小）

飯盒炊さんの中止、食事や入浴の人数制限や時間制限、分散して活動できる内容への変更を行い、全小学校で実施

・職場体験（中）

職場を訪問しての体験は中止し、講師として学校に来校いただき、講演をしていただくなどの工夫

・修学旅行

感染状況を鑑みた目的地の変更、宿泊日数の変更、混雑しない見学コースの検討等を行い、全小中学校で実施



▲間隔を保つ演技の工夫



▲オンラインによる合唱発表の鑑賞



▲バス乗車前の消毒



▲個別のメニューによる食事



▲混雑を避けた見学コース



第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

○中止や規模を縮小した行事等

・遠足、自然教室（中）

1学期当初の感染状況を鑑み、児童生徒が密集する可能性があるため中止

※ただし、自然教室（中）のうち、スキー実習を計画した2校は予定通り実施

・プール授業

プール内や更衣室等での密集を防ぐため中止

・家庭訪問

例年実施されている期間が、一斉臨時休業期間にあたったため、また、保護者等との対面での接触を避けるため中止

・四日市公害と環境未来館見学の縮小

施設内での密集を防ぐため、規模の大きい学校については、令和3年度に実施を見送り

ウ．部活動の様子（中学校）

学校再開後、6月1日から時間制限や練習方法の工夫など、感染症対策を講じながら部活動も再開しました。夏季休業中を中心に行う大会については、全国大会、県大会が中止になる中、大会の運営方法や観客の制限などを行い、地区での大会を実施しました。



▲距離を保ちながら練習をする様子



▲大会における会場の密集を避けた応援席の設置

(2) その他

○ICTを活用した行事等

・オンライン会議システムによる家庭との接続テスト

臨時休業時にも学びを継続するための取組として、全小中学校にて実施

・オンライン会議システムを活用した終業式

職員室の端末から2学期の振り返りや冬休みの過ごし方を配信し、各教室に投映

第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

ICTの活用



【英語科の授業】
プロジェクター、マイク等を活用した飛沫防止対策



【パソコン室】
対面にならないように座席を工夫



【学んでE-net!環境整備】
多目的室にPC、プリンタを設置し、自ら学ぶことができる環境整備

生活面における工夫



【手洗い場】
待機場所をテープで示すなど密を防ぐ工夫



【掲示板】
ソーシャルディスタンスが視覚でわかる工夫



【くつ箱】
空いたスペースを使用する工夫

(3) GIGAスクール構想によるICT環境整備の現状と活用について

① 学校におけるICT環境の整備状況

整備内容	年度 台数等\月	令和2年度									令和3年度		
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
R1導入小学校タブレット(各校40台)	1,480台	→											
小中学校タブレット(市単分)	3,690台		→	→									
小中学校タブレット(GIGAその①)	2,796台			→	→								
小中学校タブレット(GIGAその②)	23,577台							→	→				
大型提示装置	普通教室+ 特別教室各校6台							→	→				
校内ネットワーク整備	全教室にWi-Fi								→	→			
ICT支援員(小学校)	月2回			→									
ICT支援員(中学校)	月2回											9月より	



試用期間



本運用



小学校2学年
中学校1学年分整備完了



1人1台端末
本運用開始



第1章 目指す子どもの姿

3 新型コロナウイルス感染症に係る本市の取組状況

<タブレット端末>

令和2年度末には、小中学校児童生徒1人1台のタブレット端末が導入されました。各校では、タブレット端末を活用し、「学んで E-net!」（オンライン学習教材）で児童生徒一人一人の理解度に合わせた問題に取り組んだり、グループで考え方を画面共有し、説明し合ったりするなど取組を進めています。

<ネットワーク整備>

各教室や特別教室（理科室、美術室、技術室、家庭科室、音楽室など）、体育館に無線 Wi-Fi ルータを設置しました。学習内容に応じて、インターネット環境を活用した調べ学習を行うなど、取組を進めています。

②オンライン学習の取組

臨時休業中には、家庭学習の一環として「学んで E-net!」（オンライン学習教材）を活用するなど、インターネット環境を活用した取組を進めました。他にも、ホームページやオンライン会議システムを活用するなど、臨時休業中においても児童生徒の学びを継続するための取組も進めてきました。

令和2年度末に児童生徒1人1台学習者用タブレット端末が配備されたことから、今後、さらにICTを効果的に活用した取組を進めていく必要があります。